

平成25年度事務事業評価調書

整理番号	31	枝番	2
評価担当課	市立大学事務局総務課総務係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	地域交流センター活動推進事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	5	大学教育の充実
		基本事業	2	大学を活かしたまちづくりの推進
		実施計画事業	2	地域交流センター活動推進事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	大学と地域及び市民との交流・連携に関する相談・調整・企画・支援などの業務を行い、大学が持つ機能を有効かつ積極的に発揮しまちづくりに貢献する。			
対象(何を又は誰を)	地域・市民・学生・教員			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	①地域課題に関する相談・調整・企画・支援 ②本学の学生及び教員が取り組む地域におけるボランティア活動等の総合調整及び活動推進 ③学生活動等に係る情報提供			
意図(どのような成果を期待しているか)	地域連携・地域交流を推進し、安全・安心・安定したまちづくりに貢献する。			
事業実施主体	名寄市立大学・名寄市立大学短期大学部			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	H18 年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ 無
根拠法令・条例等	名寄市立大学地域交流センター規程、名寄市立大学地域交流センター運営委員会規程			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H22	H23	H24	H25見込	目標年度 (H26年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 ボランティア登録者数(学生・職員・市民)	人	目標	110	100	100	100	100
			実績	152	122	44	-	-
	2 ボランティア活動件数	件	目標	60	40	40	40	40
			実績	95	34	35	-	-
3 ボランティア活動参加者数	人	目標	200	300	300	300	300	
		実績	825	287	281	-	-	
成果指標	1 ボランティア依頼件数	件	目標	-	-	-	-	-
			実績	150	71	48	-	-
	2	目標						
		実績						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算	平成24年度の事業費内訳	
事業費	374	182	451	411	報償費 40千円 旅費 209千円 需用費 190千円 役務費 12千円	
国道支出金						
地方債						
その他						
一般財源	374	182	451	411		
人件費	661	668	663	663		
平均給与額	6,608	6,683	6,629	6,629		
担当職員数	0.10	0.10	0.10	0.10		
総事業費	1,035	850	1,114	1,074		
対前年比(%)	-	82	131	96	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	6,809	6,967	25,318	10,740	総事業費/登録者数(円)
	活動指標2	10,895	25,000	31,829	26,850	総事業費/活動件数(円)
	活動指標3	1,255	2,962	3,964	3,580	総事業費/参加者数(円)

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	b	平成18年の教育基本法・学校教育法の改正により大学の役割として教育研究に加えて「その成果を社会に広く提供すること」(教基法第7条、学教法第83条)として「地域貢献・社会貢献」が位置づけられた。本学では、平成17年4月の名寄市立大学設置認可申請時において「大学と市民の実践的な地域活動・市民活動の拠点」として地域交流センターの設置を予定していた。開学と合わせて平成18年に設置され、教員・学生の努力と市民の協力で支えられて活動・運営が取り組まれ、組織としての基礎が形成されてきた。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	地域や市民(団体)からの交流活動への参加依頼やボランティア派遣要望により地域交流センターが学生サークル等に情報提供等の連絡調整を行い要望にこたえてきている。地元紙、コミュニティFM放送の協力により学生活動や大学の近況に関する情報発信に取り組んできた。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	小額な予算と6名の担当教員により運営実務を行っている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	本センターが取り組む交流事業等について受益者負担の考え方は成り立たない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	①ボランティア登録者数の達成度 44パーセント ②ボランティア活動件数の達成度 87.5パーセント ③ボランティア活動参加者数の達成度 93.7パーセント ※全ての依頼・要望に対してこたえられてはいない。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	学生・教員の努力と市民の協力により地域交流センターの活動が軌道に乗っている。今後は組織・機能の強化等に取り組む必要がある。	
A:現状のまま継続		
B:進め方を改善	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
D	地域に開かれた大学として本来必要である市民交流の取り組みが不足しており、見直しが必要。

7 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	2011年度に実施された名寄市立大学に対する大学評価(認証評価)では、地域交流センターが総合窓口となって学生のボランティア活動を支援・推進し、地域交流を積極的に行ってきたことが評価された。地域交流センターは、全教員と活動に賛同する個人・団体により組織され、その運営は教員、学生、市民の代表からなる運営委員会が行っている。数多くの市民要望に応え、学生の自主的活動を支援していくためには組織体制などについて課題が残るが計画のとおり事業を継続し課題解決に取り組むことが求められる。